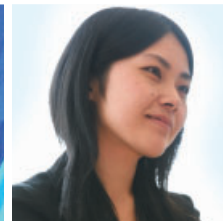




# FINANCIAL REPORT

第17期 事業報告書  
2005.10.1-2006.9.30



## ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

平成18年度（第17期）事業報告書をお届けするに当たり、一言ご挨拶申し上げます。

ネクシィーズは、常に時代の先端を行く「新しい価値」を消費ターゲットに伝達し、浸透させてまいりました。それは、クライアント企業と私たちの双方が、ともに「新しい価値」をもとに、消費者の皆様の生活を豊かにしたいという熱き想いが存在したからだと思っております。決して容易にできたことではありません。

どんなに素晴らしい商品・サービスであっても、本当の価値を正確かつ詳細に伝えられない限り、世の中に広がることはないのです。携帯電話やブロードバンドを普及させることができたのは、お客様の知りたい情報をひとりひとりに、ダイレクトに発信してきた結果なのです。

そのような成果を生んだ源泉は、ほかでもないお客様の声です。

私たちは、お客様の声をもとに、商品の売り方・伝え方を徹底的に研究し、最も浸透する形態を常にクライアント企業と模索しております。そこには、私たちにしかできない表現力と企画力を駆使したクリエイティブな発想が必要となってきます。

だからこそ、社員には自由な発想を生み出すことができる環境と新しいステージを用意したいと考えております。社員が夢を持たない限り、世の中を動かすことはできないと思っているからです。

そして、これからもネクシィーズ・グループのコミュニケーション力と社員の熱き想いを基盤に、「新しい価値」の発掘に力を入れていきたいと考えております。

それによって、もっともっと皆様の生活を便利に、楽しくしていきたい。

そして、社会にとってなくてはならない会社にしていきたい。そう強く願っております。

グループとしての結束力と、さらなるクリエイティブな発想で、次々と「新しい価値」を生み出していき、これからのネクシィーズ・グループの発展に、どうぞご期待ください。

株式会社ネクシィーズ 代表取締役社長 近藤太香巳



Ikonda

# ネクシィーズ・グループ各社の紹介

2006年4月1日をもって、持株会社体制に移行しました。

それぞれの会社がひとつの事業に特化することで、体質強化と業務のスピードアップをはかります。

ネクシィーズのDNAを受け継いだひとつひとつの会社が輪となり、個性を広げていくことによって独自のシナジー効果が生まれ、社会への貢献度をさらに高めています。



## 株式会社ネクシィーズ

グループ全体の戦略策定、経営資源の効率配分、子会社における業務執行状況の管理などを行い、戦略的かつ明確に経営資源を整備しています。また、機動的かつ柔軟な経営判断を下すことで、子会社・事業間でのシナジー効果を追求しながらグループ全体の企業価値の最大化を目指します。

代表者 近藤 太香巳  
 資本金 90億9,312万円(資本準備金含む)  
 株主構成 14ページ 株主状況にて、ご参照ください。  
 設立 1990年2月



## 株式会社ネクシィーズ・コミュニケーションズ

消費市場において企業と消費者を結ぶためのダイレクトマーケティング事業を展開しています。独自性の高いコンタクトセンターでは、お客様の声を直接聞くことで日々変化する消費市場の動向に対応するとともにお客様のニーズをクライアント企業にフィードバックすることで「新しい価値」をご提案しています。

代表者 近藤 太香巳  
 資本金 31億2,330万円(資本準備金含む)  
 株主構成 株式会社ネクシィーズ 100%  
 設立 2006年4月



## 株式会社ネクシィーズ・エンタテインメント

ブロードバンド向け動画コンテンツ配信サービスの企画・運営を行っています。ハリウッド映画を中心とした様々なジャンルのタイトルをラインナップし、幅広いユーザー層に対応するコンテンツを配信しています。ユーザーが気軽に好きな時間に好きな番組を観ることのできる快適なネットライフをご提供しています。

代表者 近藤 太香巳  
 資本金 7,000万円(資本準備金含む)  
 株主構成 株式会社ネクシィーズ 100%  
 設立 2005年9月



## 株式会社Nexyz.BB

グループ経営の中核事業であるインターネット接続サービス「Nexyz.BB」を展開しており、インターネットから広がる新たな価値あるライフスタイルをご提案しています。本サービス会員に対しては、ISPを基点としてグループ各社のサービスを付加価値サービスとしてご提供するなど、更なるサービスの充実と収益拡大に努めております。

代表者 近藤 忍  
 資本金 105億5,077万円(資本準備金含む)  
 株主構成 株式会社ネクシィーズ 62.1%  
 SBインベストメント株式会社(ファンド合計) 37.9%  
 設立 2001年7月



## 株式会社ネクシィーズ・トレード

SBイー・トレード証券株式会社を所属証券会社とする証券仲介業を行っています。個人投資家を対象に新規証券口座開設や各種金融サービスのご案内および資産運用に必要な株式用語や知識・取引開始に至るまでの疑問などにも対応しています。新たな投資家層の拡大と証券市場の健全な発展に貢献しています。

代表者 大前 成平  
 資本金 2億円(資本準備金含む)  
 株主構成 株式会社ネクシィーズ 86%  
 SBイー・トレード証券株式会社 14%  
 設立 2005年3月



## 株式会社ユーシーシー・ネクシィーズ

飲食店や喫茶店などを経営する個人事業者を対象とした業務用食品流通支援サービス業を展開しています。ユーシーシー・ネクシィーズ株式会社が提供する業務用食品の受注・発注業務や販売促進企画の提案を行っています。また、UCCグループの会員様向けには、新商品の販売からメニューの紹介なども行っています。

代表者 栗田 浩之  
 資本金 1億円(資本準備金含む)  
 株主構成 株式会社ネクシィーズ 51%  
 ユーシーシー・ネクシィーズ株式会社 49%  
 設立 2005年3月



## アイデアキューブ株式会社

クライアント企業の販売促進支援を目的とした各種ソリューションサービスを展開しています。新規顧客開拓からリピーター顧客への誘導までをワンストップで行うだけでなく必要な人的サポートまでをパッケージにした提案や企業と顧客の継続的かつ良好な関係を築くための会員組織の構築・運営までを行うサービスなどをご提案しております。

代表者 岩本 恵了  
 資本金 6億9,378万円(資本準備金含む)  
 株主構成 株式会社ネクシィーズ 83.5%  
 SBインベストメント株式会社(ファンド合計) 9.5%  
 株式会社ジャフコ(ファンド合計) 6.5%  
 その他 0.5%  
 設立 2000年11月



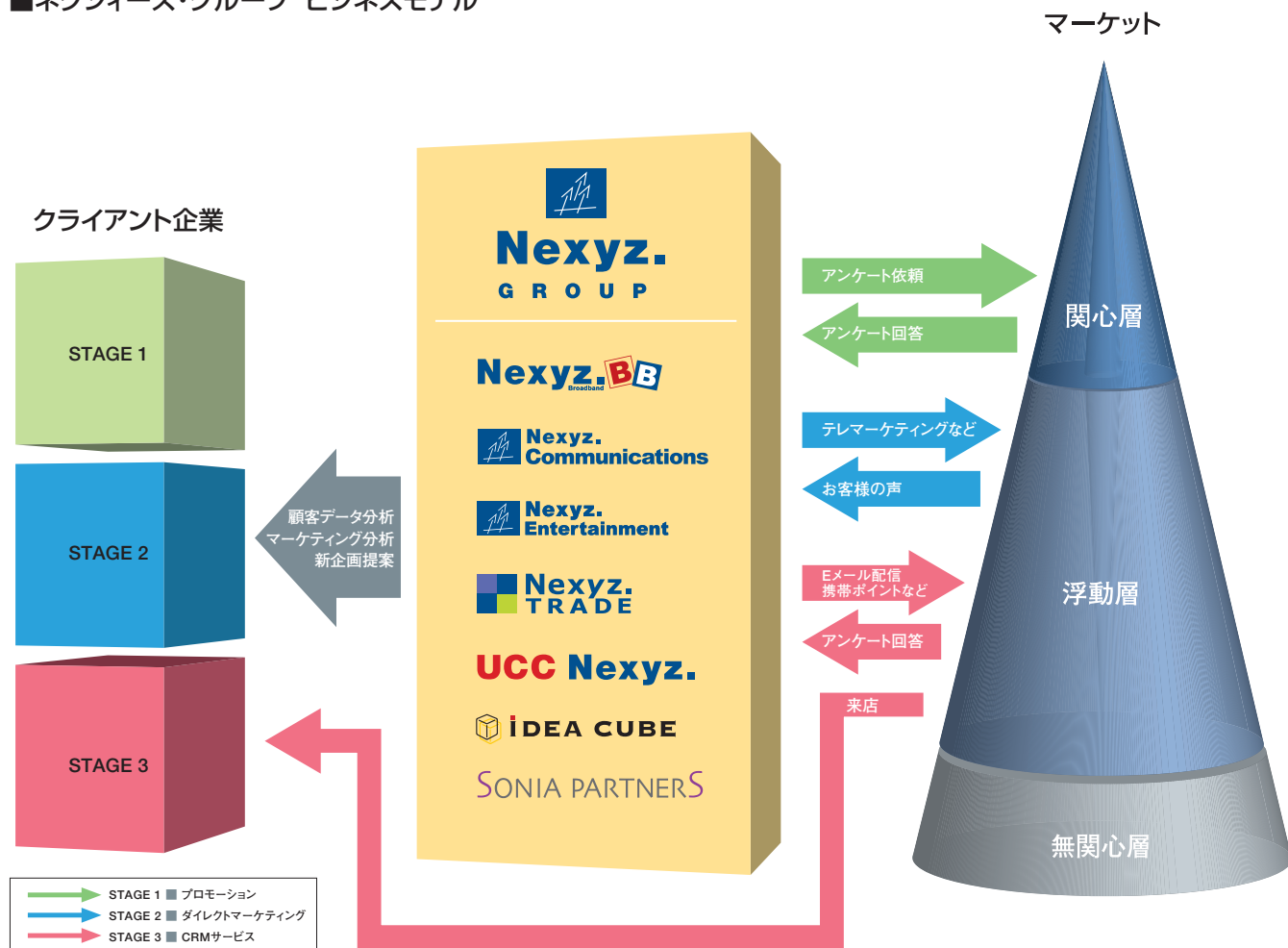
## 株式会社ソニア・パートナーズ

医療保険を中心とする第三分野商品の保険代理店業を展開しています。個人医療負担の増加への不安感や高齢化社会を背景に保険に対する需要は高まっています。お客様の生活環境と照らし合わせて、最適な保険商品の特性を理解していただくための要望や疑問に対応するとともに将来の安心をご提案しています。

代表者 大前 成平  
 資本金 9,000万円(資本準備金含む)  
 株主構成 株式会社ネクシィーズ 51%  
 株式会社ニュートン・フィナンシャル・コンサルティング 49%  
 設立 2005年7月

※上記グループ会社の他に、有限責任中間法人ネクシィーズ従業員持株事業体があります。

## ■ネクシイズ・グループ ビジネスモデル



ネクシィーズ・グループは3つの可能性で『新しい価値』を切り拓きます。



## 1 コミュニケーション力の可能性

ネクシィーズ・グループは「新しい価値」の本質を分析し、お客様とクライアント企業の双方へ伝達するための独自のコミュニケーション力を持っています。それは、ひとりひとりのお客様へ向けて、わかりやすく、丁寧に、その商品・サービスの持つ価値を伝える能力であり、また、お客様の声をもとにマーケット分析や新戦略の企画をクライアント企業に提案する能力でもあります。ブロードバンドをはじめ、様々な商品を普及させてきた私たちのコミュニケーション力は、現在多くの企業から注目されています。今後も、この強みを軸に、あらゆる業界へと事業を展開し、グループの発展を目指していきます。

## 2

### インターネット事業の可能性

インターネットは、既存の商品やサービスを変革するだけでなく、新しい商品やサービスを生み出すインフラとして進化し、日々マーケットを拡大させています。ネクシィーズ・グループでは、インターネット事業における無限の可能性を追求しています。個人のお客様に対しては、インターネット接続サービス『Nexyz.BB』を基盤として、動画コンテンツの配信やネット証券口座の開設などのサービスを提供しています。クライアント企業に対しては、Web広告を活用した顧客データの獲得など、独自のソリューションサービスを提供しています。今後も、個人のお客様とクライアント企業の双方に対して、インターネットを通じたさらなる「新しい価値」を、グループ全体で提供し続けていきます。



## 3

### 収益モデルの可能性

水道や電気、ガスと同じように、ブロードバンドは、生活になくてはならないインフラとして定着してきています。『Nexyz.BB』についても生活インフラと同様に、契約後は、月額基本料金やサービス利用料金が毎月の継続した収入であり安定した収益モデルとなっています。つまり、会員数が増えることによって、それまでの収入にプラスして、新たな会員分の継続収入が積み上がっていき、堅実な成長が見込めるということです。今後は、グループとして、継続収入が見込める新規事業を立ち上げていく考えです。継続収入型の収益モデルを増やしていくことで、グループ全体の業績が飛躍的に伸びると同時に、その収益を基盤に次なる挑戦を展開し、「新しい価値」を生み出していく可能性が高まります。



## 可能性を追求するネクシィーズ・グループを支える社員たち

次の成長に向けて、幅広く  
ネクシィーズファンを増やしていきたい



井上ひでつぐ  
(株)ネクシィーズ 社長室長  
(株)ネクシィーズ・エンタテインメント取締役  
2001年入社

IRという仕事を通じ、企業を客観的に見る機会が多い中でひとつ言えることは、どれだけ大きな資産を持っていても、どんなに画期的なビジネスモデルがあったとしても、最終的な企業価値は「人」に尽きるということです。働く人たちがひとつの目標に向かって個々の能力を100%発揮することが、ステークホルダーの皆様の幸せにもつながっていくと確信しています。創業20年を迎え、次の成長に向けて新たな一歩を踏み出す時期に来ています。今後は、いかにネクシィーズ・グループのファンを増やしていくかが課題だと思っています。さらなる可能性に期待を持っていただける会社にするために、未来を見据えて行動していきたいと思っています。



「この会社に入ってよかった」笑顔でそう  
言われるような会社をつくっていきたい



山尾良太  
(株)ネクシィーズ・トレード 取締役  
(株)ソニア・パートナーズ 取締役  
1999年入社

ネクシィーズ・トレードでは証券仲介業を、ソニア・パートナーズでは保険代理店業を行っています。両社とも時代のニーズに合った将来性のある事業なので、パートナー企業とともに独自のサービスをつくり上げていきたいと考えています。それぞれの分野でナンバーワンを目指すのはもちろんのこと、「この会社に入ってよかった」と社員が思うような会社にしていきたいと思っています。どんなに好きな仕事に就いたとしても、いい仲間には困られていないと、新たな展開はないと思います。今の仲間と仕事をしていると、自分もみんなも成長できる。その気持ちを原動力に、日々新たな可能性を追求していきたいと思っています。



女性社員から目標とされる  
上司になりたい



押切 静  
アイデアキューブ(株) 営業部課長代理  
1999年入社

クライアント企業から商品についてのオリエンテーションを受け、社内で商品説明や営業指導などの研修を行うのが私の仕事です。私を含め、まだまだ女性役職者が少ないのが現状ですが、在職している女性社員や、これから入ってくる女性社員から目標とされる上司になりたいと思っています。上司として、女性ならではのやさしさを持ちながらも、部下の成長を考えた上で、厳しいこともしっかり伝えられるようになるのが理想です。ネクシィーズ・グループは、仕事を通じて人間的に成長できる会社だと思っています。今も、そして今後も女性社員の活躍の可能性は無限にあるはずです。その可能性を自ら追求していきたいと思っています。



”ひとつになるからできること”を  
追求して社会に貢献できる会社になりたい



栗田浩之  
(株)ユーシーシー・ネクシィーズ  
代表取締役社長 1999年入社

ユーシーシー・ネクシィーズは、UCCグループの持つ商品力とネクシィーズ・グループが持つコミュニケーション力という双方の強みを最大限に活かし、“ひとつになるからできること”を追求していきたくて考えています。食品流通業界において効率的で積極的な販売促進の支援サービスを行っている当社では、テレコミュニケーションを通じて商品をご案内するだけでなくお客様からのご要望やご意見を直接聞いてUCCグループへフィードバックしています。これからもUCCグループとの確固たる連携によりお客様のための新しい価値を探求し続け、さらなる社会的存在価値・意義のある会社にしていきます。



# 業績の概況

## 1. 経営成績

### 概況

当連結会計年度における我が国の経済状況は、原油価格の高騰や、米国の景気減速への懸念による先行き不透明感はあるものの、企業の積極的な設備投資や雇用情勢の改善から、景気の回復基調が続きました。

情報通信業界、特にブロードバンド市場においては、ブロードバンド全体の契約数が平成18年6月末時点で2,421万契約と平成17年9月末時点の2,140万契約に比べ281万契約の増加となりました<sup>(注1)</sup>。高速のデータ通信が可能な光回線サービスの契約数が大きく増加すると同時に、低価格で導入が容易なDSLサービスについても都市部などの一部の地域を除き増加傾向にありました。

このような状況のなか、当社グループではテレマーケティングによる情報通信関連サービス、特にインターネット接続サービス「Yahoo! BB」の販売・提供により構築したノウハウと経験をもとに、長期的視野に立った事業戦略の一環として、当社連結子会社である株式会社Nexyz.BBにおいて直収型<sup>(注2)</sup>の収益モデルである自社インターネット接続サービス「Nexyz.BB」の提供を開始いたしました。

当連結会計年度は、「Nexyz.BB」利用者数の増大を図るため、顧客のニーズに応じた「学生応援!学割キャンペーン」、「加入権0円キャンペーン」、「トクク紹介キャンペーン」等の各種キャンペーンの実施や、業務効率化に向けた自動架電システム（プレディクティブダイヤラー）の導入等の施策を行ってまいりました。また、セキュリティ対策として、株式会社Nexyz.BBで情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）の国際規格である『ISO/IEC 27001:2005』と国内規格である『JIS Q 27001:2006』の認証を取得したほか、迷惑メールの送信を規制する『Outbound Port 25 Blocking』の導入によりセキュリティ体制を強化することで、お客様に安心してサービスをご利用して頂くための環境作りを努

めてまいりました。

しかしながら、「最大2ヶ月無料キャンペーン」による無料期間発生等の理由により、サービス開始から実際に利用料金が発生するまでの間、売上計上にタイムラグが発生し、顧客獲得にかかる費用が先行いたしました。また、「Nexyz.BB」専属で営業を行うテレマーケティングのブース数が当初の計画を下回ったため、サービス提供の初期段階で利用者確保のための営業活動が十分に行えませんでした。

そのほかの事業については、前連結会計年度においてテレマーケティング事業を他業種にも応用し、グループとしての事業領域を拡大するためJV方式<sup>(注3)</sup>により子会社3社を設立し、証券仲介、保険代理、食品卸業支援の各事業に参入いたしました。当該3社では、将来の収益増大のための顧客基盤の開拓を中心とした事業展開を行い、初期の投資段階に比べ成長段階へと差しかかっております。また、法人向けの販売促進支援サービスを中心とした事業を展開しているアイデアキューブ株式会社では、新規顧客を開拓する「マーケティングソリューションサービス」や、リピート客を増やし会員組織を構築する「CRMソリューションサービス」を中心に、クライアント企業の契約社数が順調に増加し、1社当たりから得られる月額収入も着実に増加いたしました。

これらの結果、当連結会計年度の当社グループ業績は、売上高4,520百万円（前年同期比77.1%減）、営業損失3,936百万円（前年同期営業利益1,861百万円）、経常損失4,084百万円（前年同期経常利益1,876百万円）、当期純損失3,458百万円（前年同期当期純利益728百万円）となりました。

(注1) 総務省発表資料から引用。

(注2) 回線事業者から得られる獲得初期インセンティブに加え、利用者からISP料金や各種付加サービス利用料が直接得られる収益モデル。

(注3) Joint Ventureの略。複数の企業同士が、一つの共同事業体として事業を行うこと。

## 2. 売上区分

事業区分	売上高 (百万円)	構成比 (%)	増減率 (%)
情報技術を利用した各種サービス事業	4,520	100.0	△77.1
テレマーケティング事業	1,590	35.2	△90.9
その他マーケティング事業	195	4.3	225.6
プロモーション事業	1,009	22.3	51.1
継続収入	1,724	38.2	13.0

## 3. 財政状態

### 1) 財政状態と流動性分析

当連結会計年度末の総資産は15,174百万円となり、前年同期比694百万円の増加となりました。

流動資産は11,785百万円となり、前年同期比1,727百万円の増加となりました。

これは主に、当社連結子会社であるアイデアキューブ株式会社の株式売却および株式会社Nexyz.BBにおいて第三者割当増資の実施により現金及び預金が増加したためであります。

固定資産は、3,389百万円と前年同期比1,033百万円の減少となりました。

これは主に、減損損失の認識によりレンタル資産等が減少したためであります。

負債の合計額は7,024百万円と前年同期比2,809百万円の増加となりました。

これは主に、長期借入金の繰上げ返済を行う一方で、社債への借り換えを行ったこと、機動的な資金調達のためのリボルビングファシリティ契約等により短期借入金が増加したことによるものであります。

純資産は、期末配当167百万円の実施および当期純損失を3,458百万円(前年同期当期純利益728百万円)を計上したことにより、8,149百万円と、前連結会計年度末資本合計に比べて1,970

百万円の減少となりました。以上より、流動比率は205.3%と前年同期比186.2ポイント低下いたしました。自己資本比率は37.6%と前年同期比33.3ポイントの低下となりました。

### 2) キャッシュ・フロー分析

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は前年同期比1,728百万円増加し、9,541百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの増減要因は次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度の営業活動によるキャッシュ・フローは3,334百万円の支出となり、前年同期比3,604百万円の収入減となりました。

これは主に、事業環境の変化に伴い収益モデルが大きく変化したことにより、税金等調整前当期純損失3,236百万円を計上したことによるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度の投資活動によるキャッシュ・フローは283百万円の支出となり、前年同期比943百万円の支出減となりました。

これは主に、当社連結子会社アイデアキューブ株式会社の株式売却に伴う関係会社株式の売却による収入1,117百万円があったが、定期預金の預入による支出420百万円、株式会社Nexyz.BBが提供するISP「Nexyz.BB」をはじめとする新規事業に伴う有形固定資産の取得による支出733百万円及び無形固定資産の取得による支出170百万円があったことによるものであります。

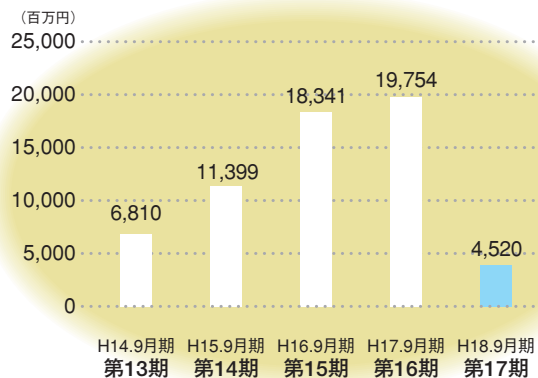
#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度の財務活動によるキャッシュ・フローは5,346百万円の収入となり、前年同期比4,632百万円の収入増となりました。

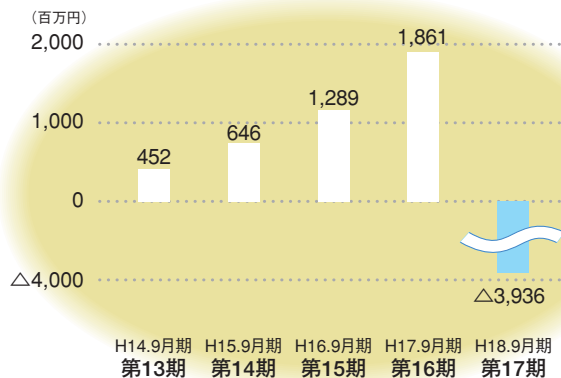
これは主に、長期借入金の返済2,008百万円を行う一方で、短期借入金の純増額3,192百万円や株式会社Nexyz.BBの第三者割当増資に伴う少数株主への株式発行による収入3,996百万円があったことによるものであります。

# 財務諸表 (連結・個別)

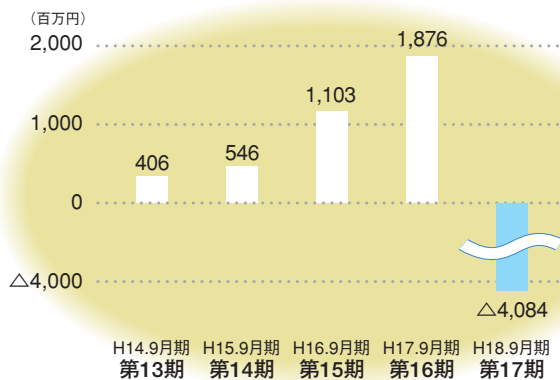
## 売上高 (連結)



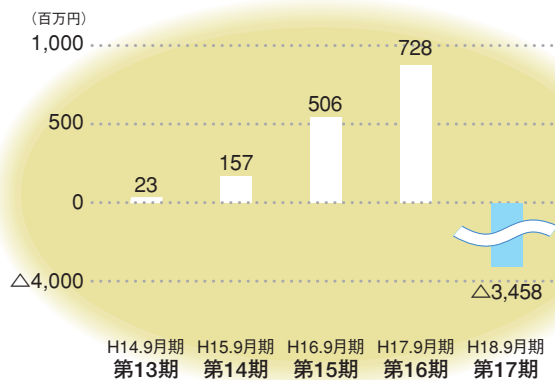
## 営業利益 (連結)



## 経常利益 (連結)



## 当期純利益 (連結)



## 連結貸借対照表(要約)

(単位：百万円)

科 目	前連結会計年度	当連結会計年度
	(平成17年9月30日)	(平成18年9月30日)
(資産の部)		
I 流動資産	10,057	11,785
II 固定資産	4,422	3,389
(1) 有形固定資産	2,085	1,291
(2) 無形固定資産	585	584
(3) 投資その他の資産	1,751	1,513
資産合計	14,480	15,174
(負債の部)		
I 流動負債	2,568	5,741
II 固定負債	1,646	1,283
負債合計	4,214	7,024
(少数株主持分)		
少数株主持分	144	—
(資本の部)		
I 資本金	4,653	—
II 資本剰余金	4,439	—
III 利益剰余金	1,028	—
IV 自己株式	△1	—
資本合計	10,120	—
負債・少数株主持分及び資本合計	14,480	—
(純資産の部)		
I 株主資本		
(1) 資本金	—	4,653
(2) 資本剰余金	—	4,439
(3) 利益剰余金	—	△2,597
(4) 自己株式	—	△793
II 少数株主持分	—	2,447
純資産合計	—	8,149
負債・純資産合計	—	15,174

平成18年5月1日施行の会社法により、「資本の部」が廃止され、「純資産の部」が新設されました。これは貸借対照表上、資産性を持つものを「資産の部」、負債性を持つものを「負債の部」に記載し、それらに該当しないものを資産と負債の差額として「純資産の部」に記載するものです。

## 連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前連結会計年度	当連結会計年度
	自平成16年10月1日 至平成17年9月30日	自平成17年10月1日 至平成18年9月30日
I 売上高	19,754	4,520
II 売上原価	13,798	5,036
売上総利益又は損失(△)	5,955	△516
III 販売費及び一般管理費	4,093	3,420
営業利益又は損失(△)	1,861	△3,936
IV 営業外収益	272	121
V 営業外費用	257	268
経常利益又は損失(△)	1,876	△4,084
VI 特別利益	8	2,375
VII 特別損失	467	1,527
税金等調整前当期純利益又は純損失(△)	1,417	△3,236
法人税、住民税及び事業税	150	214
法人税等調整額	525	380
少数株主利益又は損失(△)	12	△372
当期純利益又は純損失(△)	728	△3,458

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	前連結会計年度	当連結会計年度
	自平成16年10月1日 至平成17年9月30日	自平成17年10月1日 至平成18年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	269	△3,334
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,226	△283
財務活動によるキャッシュ・フロー	714	5,346
現金及び現金同等物の増減額(△減少額)	△243	1,728
現金及び現金同等物の期首残高	8,057	7,813
現金及び現金同等物の期末残高	7,813	9,541

## 1株当たり情報

科 目	前連結会計年度	当連結会計年度
	自平成16年10月1日 至平成17年9月30日	自平成17年10月1日 至平成18年9月30日
1株当たり純資産額	7,545円95銭	6,445円22銭
1株当たり当期純利益金額	588円61銭	△2,605円55銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	586円15銭	—

## 連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度(自平成17年10月1日 至平成18年9月30日)

(単位：百万円)

	株主資本					少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
平成17年9月30日 残高	4,653	4,439	1,028	△1	10,120	144	10,265
連結会計年度中の変動額							
剰余金の配当			△167		△167		△167
当期純損失			△3,458		△3,458		△3,458
自己株式の取得				△792	△792		△792
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						2,302	2,302
連結会計年度中の変動額合計	—	—	△3,626	△792	△4,418	2,302	△2,115
平成18年9月30日 残高	4,653	4,439	△2,597	△793	5,701	2,447	8,149

平成18年5月1日施行の会社法により、「連結剰余金計算書」が廃止され、「連結株主資本等変動計算書」が新設されました。これは貸借対照表の純資産の部の中で、主として株主の皆様へ帰属する株主資本について、その1会計期間における変動事由と変動額を、連結ベースでご報告するために作成する計算書類です。

※百万円未満は切り捨てて表示しております。

## 個別貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

科 目	第16期	第17期
	(平成17年9月30日)	(平成18年9月30日)
(資産の部)		
I 流動資産	8,480	4,576
II 固定資産	5,773	12,919
(1) 有形固定資産	1,153	402
(2) 無形固定資産	58	40
(3) 投資その他の資産	4,561	12,476
資産合計	14,253	17,495
(負債の部)		
I 流動負債	2,529	6,763
II 固定負債	1,605	1,260
負債合計	4,135	8,023
(資本の部)		
I 資本金	4,653	—
II 資本剰余金	4,439	—
III 利益剰余金	1,026	—
IV 自己株式	△1	—
資本合計	10,118	—
負債・資本合計	14,253	—
(純資産の部)		
I 資本金	—	4,653
II 資本剰余金	—	4,439
III 利益剰余金	—	1,172
IV 自己株式	—	△793
株主資本合計	—	9,472
純資産合計	—	9,472
負債・純資産合計	—	17,495

平成18年5月1日施行の会社法により、「資本の部」が廃止され、「純資産の部」が新設されました。これは貸借対照表上、資産性を持つものを「資産の部」、負債性を持つものを「負債の部」に記載し、それらに該当しないものを資産と負債の差額として「純資産の部」に記載するものです。

## 株主資本等変動計算書 当事業年度(自 平成17年10月1日 至 平成18年9月30日)

(単位:百万円)

	株主資本							純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本合計	
		資本準備金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計			
平成17年9月30日 残高	4,653	4,439	4,439	1,026	1,026	△1	10,118	10,118
事業年度中の変動額								
剰余金の配当				△167	△167		△167	△167
当期純利益				313	313		313	313
自己株式の取得						△792	△792	△792
事業年度中の変動額合計	—	—	—	146	146	△792	△645	△645
平成18年9月30日 残高	4,653	4,439	4,439	1,172	1,172	△793	9,472	9,472

平成18年5月1日施行の会社法により、「利益処分計算書」が廃止され、「株主資本等変動計算書」が新設されました。これは貸借対照表の純資産の部の中で、主として株主の皆様に帰属する株主資本について、その1会計期間における変動事由と変動額を、単体ベースでご報告するために作成する計算書類です。  
※百万円未満は切り捨てて表示しております。

## 個別損益計算書(要約)

(単位:百万円)

科 目	第16期	第17期
	自平成16年10月1日 至平成17年9月30日	自平成17年10月1日 至平成18年9月30日
I 売上高	19,161	2,067
II 売上原価	14,006	390
売上総利益	5,154	1,676
III 販売費及び一般管理費	3,542	1,258
営業利益	1,612	418
IV 営業外収益	280	131
V 営業外費用	231	260
経常利益	1,661	289
VI 特別利益	0	942
VII 特別損失	423	517
税引前当期純利益	1,238	713
法人税、住民税及び事業税	30	13
法人税等調整額	525	385
当期純利益	682	313
前期繰越利益	494	—
中間配当額	150	—
当期末処分利益	1,026	—

期間中における剰余金の変動は、平成18年5月1日の会社法により新設された「株主資本等変動計算書」で説明されるため、損益計算書末尾の「未処分利益」の施行計算区分は廃止されました。

## 1株当たり情報

科 目	第16期	第17期
	自平成16年10月1日 至平成17年9月30日	自平成17年10月1日 至平成18年9月30日
1株当たり純資産額	7,544円26銭	7,491円34銭
1株当たり当期純利益	550円92銭	236円50銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	548円61銭	—

## 株主状況(平成18年9月30日現在)

	株主名	所有株数(株)	持株比率(%)
1	近藤 太香巳	436,238	32.52
2	有限責任中間法人ネクシィーズ従業員持株事業体	76,935	5.74
3	ネクシィーズ従業員持株会	26,144	1.95
4	株式会社まぐクリック	16,800	1.25
5	大前 成平	13,080	0.98
6	個人株主	12,900	0.96
7	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	12,834	0.96
8	個人株主	7,324	0.55
9	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6,986	0.52
10	パークレイズ バンク ピーエルシー パークレイズ キャピタル セキュリティーズ エスピーエル/ピーピーアカウント	6,828	0.51

※当社は、大株主上位10名のみ開示しております。

## 株主メモ

事業年度	10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会	営業年度末日の翌日から3ヶ月以内
株主名簿管理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番4号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	住所変更等用紙のご請求 ☎0120-175-417 その他のご照会 ☎0120-176-417
ホームページ アドレス	<a href="http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html">http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/ retail/service/daiko/index.html</a>
同取次所	住友信託銀行株式会社 本店及び全国各支店

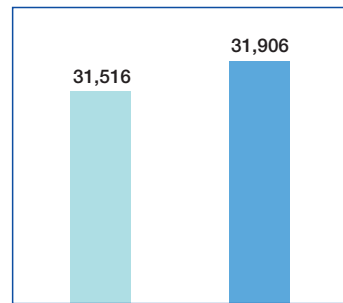
## 株主数

**31,516名**(平成17年9月30日)



前期末比390名増

**31,906名**(平成18年9月30日)



(単位：名)

(平成17年9月30日) (平成18年9月30日)



会社名	株式会社ネクシイズ
〒150-0031	
本社所在地	東京都渋谷区桜丘町20番4号 ネクシイズ スクエアビル
代表者	近藤 太香巳
設立	1990年2月21日(創業1987年5月)
資本金	90億9,312万円(資本準備金含む 2006年9月30日現在)
役員構成	代表取締役社長 近藤 太香巳 取締役副社長 大前 成平 専務取締役 松井 康弘 常務取締役 近藤 忍 取締役 藤野 剛志 取締役 祐成 太郎 取締役 吉藤 淳 常勤監査役 石井 安夫 常勤監査役 戸田 孝一 監査役 平田 浩 監査役 中井 政嗣

(2006年9月30日現在)

サービス内容	テレマーケティングサービス マーケティングサービス プロモーションサービス
所属団体	ブロードバンド推進協議会 日本フードサービス協会 賛助会員 日本テレマーケティング協会 会員

グループ企業	株式会社Nexyz.BB 株式会社ネクシイズ・コミュニケーションズ 株式会社ネクシイズ・エンタテインメント 株式会社ネクシイズ・トレード 株式会社ユーシーシー・ネクシイズ イデアキューブ株式会社 株式会社ソニア・パートナーズ
--------	--

証券コード：4346

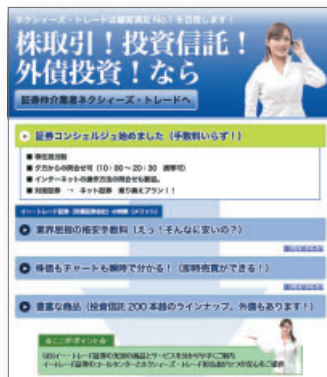


ISMS認証の取得/『ISO/IEC27001:2005』『JIS Q 27001:2006』  
ISMSとは、組織に必要なセキュリティレベルを定め、自らのリスク評価を行い、プランを持ち、資源配分し、システムを運用・改善していくマネジメントシステムのことです。  
ネクシイズ・グループ(株式会社ネクシイズ) 管理本部および情報通信管理部/株式会社 Nexyz.BB/イデアキューブ株式会社 管理本部)では、お客様に関わる各種情報を適切に保護・管理する仕組みを構築していくことでお客様の安心感・信頼感の向上に努めてまいります。



# 証券コンシェルジュ誕生

パソコンが苦手な方でも安心してインターネット株取引を始めていただけるように「話せる安心」、「聞ける安心」を皆様にご用意いたしました。  
ネクシイズ・トレード、証券コンシェルジュサービスのスタートです。



詳しくはコチラ

- フリーダイヤル **0120-773-553**
- インターネット <http://www.nexyztrade.co.jp/>

困ったときはお電話ください。  
フリーダイヤルで夜20:30まで、  
携帯電話からもつながります。

株式会社ネクシイズ・トレードはSBIイー・トレード証券株式会社を所属証券会社とする証券仲介業者です。  
登録番号:関東財務局(仲)第168号 当社は、所属証券会社の代理権は有しておりません。当社は、お客様から直接、金銭や有価証券のお預かりをすることはありません。



IS93994/ISO(JIS Q)27001